

神戸新聞朝刊コラム「正平調」に見る6・7月の世相
物価高・トランプ関税そして、厳しい暑さと激甚化する気象が局所豪雨
行き先が見えぬ中で混迷日本 7月の参議院選挙 2025年7月 from Kobe



選挙戦が終わった翌朝の新聞より 惨敗に終わった自公 国難の時代に政治は混迷を深める
この選挙戦の勝敗を左右した若者たち!! 政治の行く手を見定めよ.....

トランプが我がもの顔で「アメリカファースト」とトランプに翻弄される世界

そして、同盟国日本もその渦中 トランプの手の内に。

私には自分さえよければと不遜な自分本位に見えるトランプ「アメリカファースト」。世界、そして日本の先行きが全く見えぬ中で、次々と国際協調の枠組みが壊されてゆく。自己中心の◎X二者択一を迫る弱者切り捨ての時代へ 世界が巻き込まれてゆく。

日本製鉄の US Steel 買収の決着がついて、やっと一息。でもトランプ関税に世界が、そして日本が翻弄される。それをモデルにするかのような、今までとは全く異質だった本年7月の参議院選挙

選挙戦とも思えぬ選挙風景が巷で繰り広げられ、

街での街頭演説や選挙ポスター そして選挙カーを取り巻く熱狂的ファン。まるでトランプ体験に酔いたいともとれる若者たち等々についにぶつつ。

是非はともかく若者たちが巻き起こした新風!! この新しい風が日本の未来を変える原動力になるよう者たちも責任を果たす行動と意見を異にする人たちにも目を向けてほしいなあ!!

呪文のように唱えてきた、「人類が生き延びてきた道のキーワード:人類だけが有する相手を思う心」その原点がむべなく壊されてゆく。

神戸新聞正平調氏いわく「命 ばんざい ざいざいざい」とセミが鳴く

さあどうなる 日本の行く先は.....

2025.7.25. From Kobe

以下 選挙戦前後の6・7月の神戸新聞コラム「正平調」に掲載されたものより、私の気に入った「ふむふむ」。思いは人それぞれですが、こんな意見もあると.....

追伸: トランプ関税は 15%で合意したという。

日本では「これで一安心」との空気が流れているが先行きは???? 2025.7.23.

厳しい暑さの中で戦われている参議院選挙戦 県政の混乱の中で注目される兵庫の選挙
まるで、イベント会場か..... 選挙ポスターにもこれが候補者?と思わせる政見なき
ポスターに顔をしかめる。受け止めは人それぞれですが、年寄の戯言
真偽を確かめぬスマホ・SNSがまき散らす危うさのめをさせと。



正平調 作家の島田雅彦さんがある対談で語っている。「喜怒哀楽の感情のなかで、なぜか人を最も饒舌にするのが『怒』です」と。本当は怒りたくなかない。それでも感情の内燃機関が点火、爆発し、言葉を吐き出すしかないときがある◆「常識外れ」「信じられない」「言語道断」「ばかにしている」「許しがたい」。能登半島地震の被災地内外から「怒」の言葉があふれて止まらない。火をつけたのは自民党・鶴保庸介氏の「運」発言である◆参院選の応援演説で「運のいいことに能登で地震があった」と述べた。その後の会見では「私が責任を取ることで皆さんの気持ちが収まるなら…」とも口にした。なんとという言い草、確かに人をばかにしている◆能登では約2万人が仮設住宅での不自由な暮らしをいられている。歯を食いしばる被災地に政治家が届けるべきは「喜」や「楽」であって、「怒」や「哀」ではないはずだろう。なんで、そういうことを言う◆うちは災害と無縁です、という場所は日本のどこにもない。だれもがあなたの被災者になりうる、くらいの想像力があれば「運」どころごとくとも言えないはずである◆失言に妄言、また暴言。他者の痛みに寄り添えない政治家を持ったわれら国民の不運を心の底から嘆く。 2025.7.11

参議院選応援演説の中で出た暴言「運のいいことに能登で地震があった」と。最近の世相を見るとまあしゃあないなあときれ返る。

「受け狙い」「自分本位」もう言いつばなし、真偽はお構いなしの言ったもの勝ちのスマホ・SNS 拡散本位。また 確かめもせず受け入れる刹那の世界。

今 日本で起こっている情報過多社会の縮図 最後は自己責任で片が付く。

いやな冷たい社会がひたひたと。ご用心ください 2025.7.12. Mutsu Nakanishi

正平調 日本のセミを「樹に棲むこおろぎ」にたとえ、その鳴き声を称賛したのは明治に來日した作家小泉八雲(ラファディオ・ハーン)である。「稀にみる名歌手揃いといわねばならない」◆八雲は随筆に書いている。ミンミンゼミは「すてきな音楽家」に、ヒグラシは「小さな鐘が連打されるよう」に、ツクツクボウシは「まさに鳥の歌」に聞こえる。アラゼミの絶叫は耳を震らすばかりだ、とも◆雨上がりのきのう、セミが鳴くのを聞いた。クマゼミに、アラゼミもいる。短かった梅雨と酷暑のせいで出遅れを心配する声もあったが、いよいよ出番らしい。見上げた樹にはみことな抜け殻が幾つもあつた◆セミの抜け殻を指す「空弾」は、この世、この世の人、との意味でも用いられる。もとは「現し臣」「現人」などから転じた当て字といい、短命を惜しむように鳴くセミのはかなさが人の世に重なったのだろう◆まど・みちおさんに「セミ」という詩があつた。〈土の中から けさでてきて/もう セミがうたえている〉。賛歌のようにふり注ぐ歌声をまどさんはこう書いた。〈たいようばんざい ざいざいざい〉◆詩人みたく耳をすませば、戦後80年のせみしぐれがはや聞こえてきそう。いのち ばんざい ざいざいざい。 2025.7.16

「正平調」氏は下記のように記している

- ◆ セミの抜け殻を指す「空弾」は、短命を惜しむように鳴くセミのはかなさが 人の世に重なったのだろう
- ◆ まど・みちおさんに「セミ」という詩があり、賛歌のようにふり注ぐ歌声を記していると。〈土の中から けさでてきて/もう セミがうたえている〉。まどさんはこう書いた。〈たいようばんざい ざいざいざい〉
- ◆ 詩人みたく耳をすませば、いのち ばんざい ざいざいざい。 2025-7-16

参議院選挙ももう終盤 「バラマキ選挙」若者たちの「スマホ・SNS拡散選挙」と言われた今回。良くも悪くも まもなく結果が出る。「いのち ばんざい ざいざいざい」と新風が吹きますよう

正平調

夏の土用のころ、風もないのになうねりを伴った大波が海岸に押し寄せてくることがある。はるか南方の台風に起因するもので、「土用波」という。曆上ではちょうど今の時期にあたる◆参院選の開票速報を聞きながら、時候の一句を思い浮かべた。〈土用波一角崩れ総崩れ〉(本井英)。与党の苦戦は選挙の前から伝えられてはいたが、不信の大波がまさかこれほどとは…という崩れようである◆早々に幕引きを図ろうとした政治とカネの問題か。有効な手を打てずに長引く物価高か。大波の要因はいろいろあるにしても、与党に怒りの逆風が吹いたというよりはむしろ「さじを投げられた」に近いだろう◆「たこが一番高く揚がるのは風に向かっているときである。風に流されているときではない」。元英首相チャーチルの言葉と伝えられる。さじを投げられ、向かい風にも見捨てられたら、たこは落ちるしかない◆暮らして経済、安保・外交、そして突如として争点に浮上した外国人政策。選挙を通じて有権者の目に映ったのは、野党や新興政党に票を奪われまいと目先の風ばかりを追って迷走する首相の姿ではなかったか◆〈土用波夕日の力まだのころ〉(櫻井博道)。落日の政権与党に立て直しの余力ありやなしや。時間はない。2025.7.21

社説

2025 参院選 2025.7.21

2025.7.21

参院選は20日投票開票され、自民・公明両党の与党が改選議席の過半数を下回るの確実となった。先行きの見えない物価高やトランプ関税への対応、中途半端に終わった政治資金改革などが政権を直撃した。国民民主党や参政党が保守層や無党派層の受け皿となり、議席を大幅に増やした。立憲民主党は伸び悩んだ。

「自公で過半数」という自ら設定した最低限の目標を達成できなかったのは、石破茂首相の責任論が強まるのは必至だ。衆参両院で少数与党となり政権運営はさらに厳しさを増す。政権の枠組みを巡って各党の駆け引きが激化するだろう。目先の「数合わせ」では、国民の信頼は遠ざかるばかりである。山積する国内外の課題にどう対処するのか。与野党を問わず重い責任を負うことになる。異なる意見や利害を調整しながら幅広い合意に基づく政策本位の政治を構築せねばならない。

消費税の減税・廃止か、給付金か。暮らして物価高が影を落とす中、今回の参院選は「負担軽減」の訴えの大会となった。

昨秋の衆院選で自民、公明両党は過半数を割り込んだ。石破政権は野党の賛成なしには予算案も法案も通せない不安定な政策運営を余儀なくされてきた。与野党が政策ごとに協議を重ね、一致点を見いだしてきたのは一歩前進だ。ただ野党は個々の公約を実現させる

国民の厳しい審判を直視せよ

自公敗北

手柄合戦に走り、与党も政権維持を優先した印象は否めない。財政健全化や、人口減少社会での給付と負担の在り方を含む税とを掲げ、排外主義に結びつきかねない規制強化や権利の制約を訴える政党が勢いを増した。

少子高齢化が進む日本では、外国人労働者は経済社会の維持や成長に欠かせない存在だ。政治の無策を棚上げ、物価高や格差拡大などで高まる国民の不満の受け皿を外国人へ向けさせて分断や対立をあおる事態を深く憂慮する。

政府は、選挙戦のさなかに外国人関連の施策を取りまとめる新組織の設置を打ち出した。「日本人ファースト」を掲げる参政に自民の岩盤支持層を切り崩される焦りが透けたが、結果的に差別や偏見を助長する懸念が拭えない。同じ社会の一員として外国人が安心して働き、暮らせる環境をつくること、政治が果たすべき役割だと肝に銘じる必要がある。

新興勢力の伸長は物価高や賃金、雇用など身近な課題に十分に対応できない既存の政治に、有権者が「不信任」を突きつけた結果とも言える。「政治とカネ」を巡る問題を軽視し、抜本的な改革に取り組みもつけない自民党のみならず、主要な既成政党にも厳しい目が向けられた。

そうした中、インターネットの交流サイト(SNS)や動画を戦略的に活用して若年層らにアピールする政党が現れ、支持を集めた。こうした流れはより強まるのではない。偽情報の発信や誹謗中傷などSNSの規制強化を巡る議論も必要だが、政党への不信を招いた原因そのものに向き合うことを忘れてはならない。

価値観の多様化もあり、一つの政党が安定多数を維持し続けるのは難しくなると考えられる。

超党派で課題解決を少数与党と対峙する野党各党も政策の隔たりは大きい。与党が数を確保するために議席占有率の小さい政党にすり寄り、場当たり的な対応を繰り返す。それは民意に沿った政策と考えるのか。政党間協議の在り方やルール化も議論するべきだ。

物価上昇を上回る賃上げへの道筋を示し、政治とカネや選択的夫婦別姓制度などの積み残された課題の解決へ、党派を超えて踏み込んだ対応が求められる。

投票率は推計で50%台後半と前回選を下回った。昨秋の衆院選に続き、民意は与野党仲介による立法院の復権を望んだ。選挙の後、政党や当選者が自託にどう応えようとするのか、点検を続けるのも有権者の役割である。

選挙結果が明確になった7月23日の神戸新聞のコラム「正平調」より

◆あなたにとって町は何をすることで聞かれたら、さて、どう答えよう。

暮らすにせよ、働くにせよ、遊ぶにしても「心地よく息ができるところ」であってほしい。

自分も、隣人もである

正平調

「町」を題材にした随筆選集をつくるにあたって、作家の山口瞳さんが編者を任された。文人たちの数ある名文を読みながら、山口さんは人それぞれに町への向き合い方があると感じていく。植草基一にとっては、町は買物をするところである。織田作之助にとっては「ものを食べるところ」、開高健にとっては「酒を飲むところ」だと、「日本の名随筆9 町」(作品社) ◆あなたにとって町は何をするところかと聞かれたら、さて、どう答えよう。あれこれ迷うが、暮らすにせよ、働くにせよ、遊ぶにしても「心地よく息ができるところ」であってほしい。自分も、隣人も、である ◆参院選では、日本に暮らす外国人への差別をおおるような、また小ばかにしたような発言が候補から聞かれた。選挙が終わり町は静かになったが、何とも息苦しく、ざらついた空気が今も消えないで残っている ◆田辺聖子さんが神戸に暮らしていた頃の思い出を、ある対談で語っていた。近所の公園で外国人の子どもがキャッチボールをしている。転がってきたボールを夫が拾ってあげた。子どもは言った。「おおきに」 ◆話はただそれだけだが、いい町だなあと思う。気持ちのいい風がすーっとあたりを吹きぬけていくような。 2025.7.23

- ◆ 参院選では、日本に暮らす外国人への差別をおおるような、また小ばかにしたような発言が候補から聞かれた。選挙が終わり町は静かになったが、何とも息苦しく、ざらついた空気が今も消えないで残っている
- ◆ 田辺聖子さんが神戸に暮らしていた頃の思い出を、ある対談で語っていた。近所の公園で外国人の子どもがキャッチボールをしている。転がってきたボールを夫が拾ってあげた。子どもは言った。「おおきに」
- ◆ 話はただそれだけだが、いい町だなあと思う。気持ちのいい風がすーっとあたりを吹きぬけていくような。
神戸新聞朝刊コラム「正平調」氏が呼びかける 2025.7.23.

ずっと待っていた風が今吹いた まるでやさしい声で 話しかけるように吹いた
I's going to be all right きっと大丈夫
思うようにはいなくても ----- 小田和正「風を待って」より

何とも言えない穏やかな空気感 こんな日本をとりもどしたい。
日本の若者たちはこんな未来の日本を作り上げてくれるだろうか
新しい風がこんな方向に吹くことを期待して、「ふむふむふむ」と
From Kobe Mutsu Nakanishi



勝手な年寄の戯言 お許しを
元気にこの厳しい夏を乗り越えねばと
一日一日 積み重ねて
毎日の新聞や web news より

【参考】 From Kobe 7月 参議院選挙の中で インターネット収集資料より
日銀に貯め込まれた膨大な負債の山 財源がないのに「消費費税減税」・「給付金」の選挙公約 先行きを語る政治
日本どうすればよいのか。 : <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025mutsu/fkobeR0707A.pdf>